

うらわ美術館 多世代交流ワークショップ  
2023.8.19(土)

## ミテミルラボ 「BIB」をミテミル。

うらわ美術館主催の多世代交流ワークショップ ミテミルラボ～「BIB」をミテミル。～が開催されました。

夏休み期間中の開催ということもあり、小学生のお子様や親御様の参加者が多かったです。

今回は昨年に引き続きの開催になり、「ブラチスラバ世界絵本原画展 アンニョン！絵本でひらくアジアの扉」開催期間中に実施されました。読み聞かせと対話型鑑賞の組み合わせ。どんなワークショップになるのかとても興味が湧きました。鑑賞ファシリテーターの3人の方（ここではニックネームで記載します）いしかわさん、ぺこさん、たかおかさん（中央図書館の職員で絵本の読み聞かせをされている）のファシリテートのもと、ワークショップは進行していきましました。まず、参加者がそれぞれ名札に可愛いイラストなどを付けて呼んで欲しい名前を名札に書いていきます。そして名札が完成したところで、ファシリテーターから複数の絵が提示されました。その中でそれぞれの参加者が



自分の気に入った絵を選びます。絵を選んだところで時計回りで自己紹介をしていきます。絵の感想と呼んで欲しい名前を言っていきます。同じ絵を選んでも人によって絵の捉え方が違うので、それぞれの絵の感想がとても興味深かったです。

実はこの提示された絵は、今回の絵本の原画展で展示されている韓国の絵本の一部を抜き出した物でした。原画の一部を切り取ったものを見ると、絵本全体を見るのではまた印象が違いました。

参加者の方からは「日本の絵本と海外の絵本の絵だとなんとなく感覚が違う」という意見があり、私も同じことを感じたため、おもしろいと思いました。

次の展示室へ移動し、展示されている中の1つの作品の中から気になった原画の感想を鑑賞しながら対話していきます。人によって捉え方が違います。

初めは恥ずかしがって自分の感想を言えなかった参加者の方も鑑賞ファシリテーターの方々のフォローもあり、だんだんと自分の考えを話すようになりました。「目が魚で表現されている」「手が蛇のように見える」「4枚の絵は喜怒哀楽を表現しているのではないのか」「色によって違う」「正面からではなく、横から見てみる」「4枚の絵から力を感じる」様々な意見を聞いていくうちに、「そんな捉え方もあるのか」「その捉え方は発想になかった」という印象を持つ瞬間がいくつもあり、対話することに夢中になりました。

みんなそれぞれの考え方を共有するうちに、場も和んでいきました。これも対話型鑑賞の魅力の一つだと感じました。

参加した人たちの年齢によっても作品に対して持つ印象が異なります。その印象を全体で共有することも多世代交流ワークショップの魅力だと感じました。

そしてみんなで4枚の原画を見たあとは、絵本の読み聞かせに移ります。



その絵本というのが、先ほどみんなで鑑賞を話し合った原画が出てくる絵本でした。自分たちが想像した絵が出てくる絵本と聞いて参加者は絵本の世界に集中していきましました。

そのあとは全員で絵本の鑑賞で感じたことを共有していきます。

まず出た意見が「原画から想像した内容と、絵本の内容が違った」「作者の絵本の世界で描く感情の振り切り方が印象に残った」「どうしてこの絵本を書いたのだろう？と、自分自身が作家になったようにそのような作者の考えに至った」。原色だけであれば絵からの印象が残りますが、絵本と見ると、絵本に書いてある言葉のほうが印象に残ると感じました。

うらわ美術館の秋山さんは今回のワークショップ開催にあたり鑑賞方法を考えたそうです。①原画を見てからストーリーを追うか②ストーリーを知ってから原画を見るかなど様々な方法を検討したそうです。最終的には今回のように絵を見てからストーリーに追ったので、参加者は想像を膨らませやすかったのではないのでしょうか。絵をじっくり見て想像しながら絵本を読むと、人によって感想が違うので、普段の絵を見たり、絵本の読み聞かせを聞いたりする鑑賞体験とまた違った鑑賞体験ができたのではないかと思います。原画を元に想像した感想とストーリーを絵本で読み聞かせてもらってから知った感想が違うことについてとても興味深く感じました。